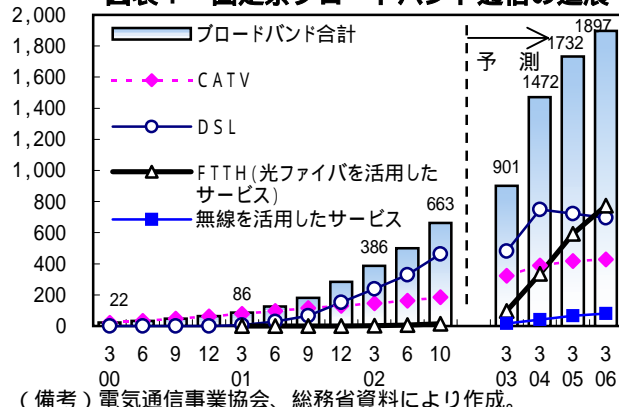


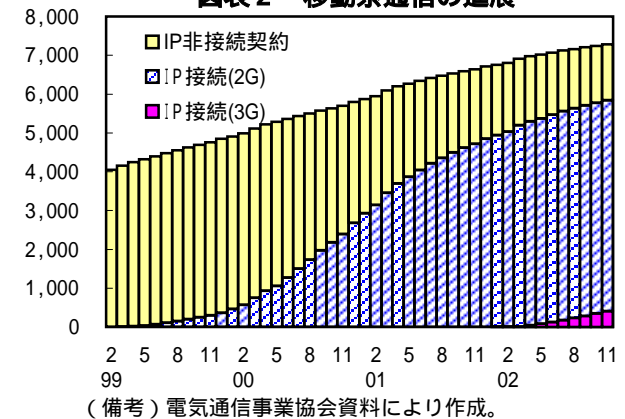
通信インフラの進展と新たなコンテンツ・サービスへの期待

- ・固定系ブロードバンド接続は、FTTHの普及が総務省の予測より遅れているものの、低価格・高速化という技術革新の続くDSLの急速な普及により順調に拡大している。
- ・移動系通信では、IP接続契約が拡大を続け、11月末時点で携帯電話総契約数の8割に達した。データ伝送速度が速くなった第三世代携帯(3G)は約405万契約(総契約数の5.6%)となっている。
- ・最大2M~2.4Mbpsという高速データ通信が可能となる3G(高速対応モデル)が、2003年秋にも本格サービスが開始される予定となっている。
- ・移動系、固定系含めたアクセス系のデータ通信インフラでは、さらに高速・大容量化する技術が実用化段階に入っているものもあり、今後も通信インフラの進展が予想される。
- ・このようなインフラの進展に対して、コンテンツ・サービスの不足が懸念されている。双方向通信などインフラの特徴を活かした新たなコンテンツ・サービスの提供が期待される。

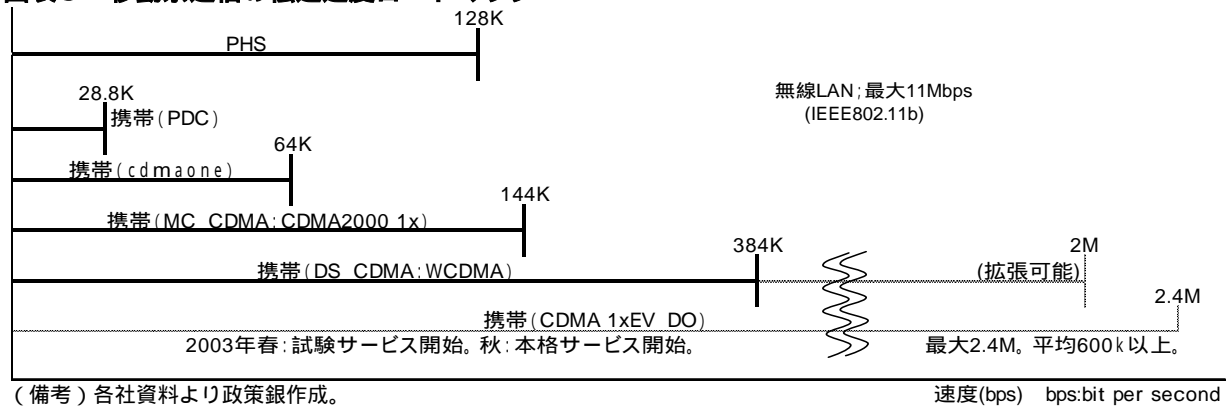
(万加入) 図表1 固定系ブロードバンド通信の進展



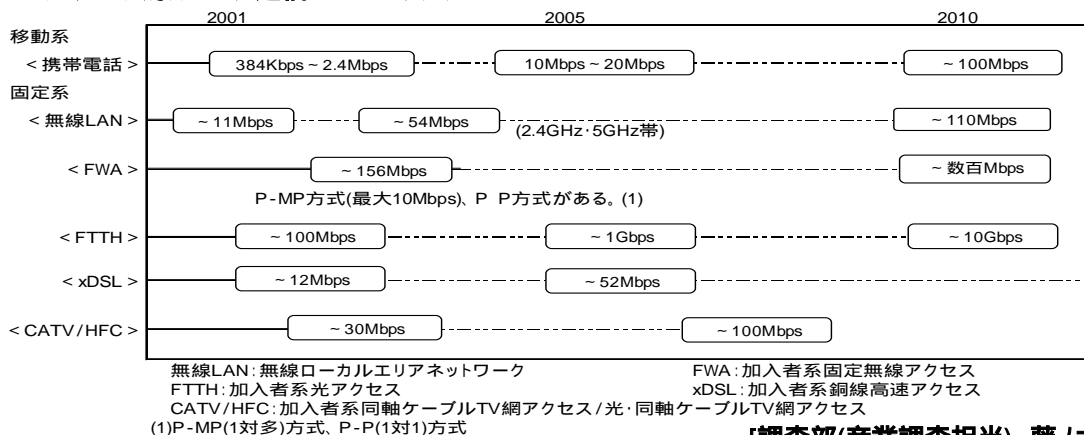
(万契約) 図表2 移動系通信の進展



図表3 移動系通信の伝送速度ロードマップ



図表4 アクセス系データ通信ロードマップ



(備考) 光産業技術振興協会資料に加筆。

[調査部(産業調査担当) 藤ノ木 健一]

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp